

減災ニュース No.23



環七地下調節池見学記(その1) 和田三丁目東町会 減災プロジェクトチーム

環七の地下には謎の巨大施設があるとのことで、機会があれば見てみたいと思っていたのですが、先日和田青少年育成委員会で見学会を企画されましたので参加してきました。本施設は東京都建設局第三建設事務所が管理しており、見学には事前予約が必要で、見学時間はビデオ等を使った説明と、地下 57m に降りてのトンネル見学で 1 時間半ほどかかります。説明は大変丁寧で解りやすく、興味深いものでした。



神田川水系とは 三鷹の井の頭池から杉並区の南側を流れる一級河川で、区の中央を流れる善福寺川、北側を流れる妙正寺川と合流し、隅田川にそそぐ延長 24.6 km、流域面積 105 平方 km の都内最大の河川です。妙正寺川、善福寺川の合流する神田川下流沿いでは台風とか集中豪雨でけっこう床上浸水の被害があったとのことでした。昭和 20 年代には 56% だった市街化地域（それ以外は畑や野原）が昭和 60 年代には 95% となり、雨水は地下に浸透することなく直接河川に流入するようになったため、洪水が増加したとのこと。自然って大切ですね。

環七地下調節池とは 妙正寺川、善福寺川、神田川の洪水対策として、野方から方南町先までの環七地下に作られた長さ 4.5 km、内径 12.5m の大トンネル施設で、54 万立方 m（東京ドームの約半分、25m プールで 1800 個分）の水が貯められるとのこと（雨量 50mm/H まで対応）。工期は昭和 63 年から平成 20 年までのなんと 20 年間、費用は 1010 億円もかかったビッグプロジェクトとのことでした。



コントロールパネル

どう使われる? 取水口はふだん開けられており、川が増水すると自然にトンネルに流入する仕組みになっています（休日夜間などの無人時にも対応）。取水口は環七から 100m ほど入った善福寺川沿いの取水施設にあり、環七地下の調節地トンネルと接続されています。取水口には防護ネットがあり 20cm 以上の流木等は入らないようになっています。また、取水口から地下 57m のトンネルに水を落とすドロップシャフトは、振動や騒音対策として水が渦をまいて落ちるようになっているとのこと。川の水が引くとポンプでトンネル内の水を川に戻しますが、トンネル満杯の水を戻すにはまる 2 日かかるとのことでした。ちなみにこの施設は防火水槽としても活用するため、12 月から 5 月の渇水期には 6 万トンの水を貯水しているとのこと。また、将来は更にこのトンネルを延長して総延長 30 km の環七地下河川を作り、直接東京湾に水を流そう（トンネルは下流に向かって 1/1500 の勾配がある）という大構想の一部となっています。（次回に続く）



ハッチ



ドロップシャフト

減災ニュースに関するご要望、お問い合わせ 松尾 5932-0083

町会HP <http://members3.jcom.home.ne.jp/wagamachi/>